



2019年2月
第686号

日本基督教団 平塚教会
発行人 平塚教会
編集人 中山洋司
〒254-0045 平塚市見附町6-18
電話 〇四六三(32)八八三一



「何を信じたか、 信じてどうなったか」

平塚教会牧師 北川 一明

兄弟たち、皆一緒にわたしに倣う者となりなさい。また、あなたがたと同じように、わたしたちを模範として歩んでいる人々に目を向けなさい。(フィリピ三・一七)

復活のキリストは、ガリラヤに顕れた時「あなたがたは行つて、すべての民をわたしの弟子にしなさい(マタイ二八・17)」と、おっしゃいました。だからクリスチャンであるならば、何がなんでも絶対に伝道してください。伝道しないクリスチャンは滅びます。

…教会が右のように言っていると、多くのクリスチャンは「無理だ」と困惑するでしょうか。

でも、楽に自然に生きていけば、それが伝道になっているのが信仰者の本来の生きかたです。

昨年のアドベント祈禱会は、信徒のみなさんの「感話」をしませんでした。感話者を募るのが難しかったからです。

反省会の時「信仰者は誰でも自分の感話が出来よう

になるべきだ」という意味のことをおっしゃったかたがありました。
その通りだと思えます。「あなたがたの抱いている希望について説明を要求する人には、いつでも弁明できるように備えていなさい(1ペトロ三・15)」と書いてある通りです。

「伝道してください」と言われて「無理だ」と思うのはなぜでしょう。聖書を説明したり、神について教えた

りすることを「伝道」と考えるからでしょう。
聖書学者でもない限り「聖書を説明せよ」と言われたら途方に暮れて当然です。聖書の日本語の意味は分かれます。しかし歴史上は到底ありそうにないことが書かれているのです。それを事実のように説明したら「宗教にハマった怪しい人」と思われます。

「神について教えよ」と言われても困ります。神は、人間には知り得ません。それを説明しても、相手は困惑するだけです。

私たち自身がキリスト教信仰をもった時のことを思い出してみましよう。クリスチャンから「全知全能の神は天地を創造した」と説明されたかもしれません。それで「そうか！数多ある宗教の中で、キリスト教の神だけが全知全能の創造主だ！」と納得し信じたのでしょうか。

目次

「何を信じてどうなったか」

北川一明牧師… 1

ひつじ会とCSの新年会

… 2

各部探訪

「さん木かい」について

星野みどり… 3

教会学校のクリスマス

富田光子… 3

皆様宜しくお願い致します

坪田裕美… 4

編集後祈

… 4

「イエスさまは医者でも治せない障がい
治した」と教えられて、「信じれば障がい
治る」と信じたのでしょうか。

そうではないでしょう。人の説明を受けて
信じたわけではありません。私たちは、クリ
スチャンの生きかたを見て、その人のように
生きたいと願って信じるようになりました。

神は絶対である／人は神の似像である／神
は人間を愛してくださった／。そうした教
理は、キリスト教の側の言い分です。私たち
は、信じた後になってから「確かに神は私の
ことを愛してくださっているようだ」とか「私
の罪は、キリストの十字架がなければ赦され
なかった」と感じたのです。

伝道するためには、まず「あの人のように
生きたい」と思われることが必須です。つま
り普段から幸せで喜びに溢れていることが大
前提です。

次に、自分の幸せや喜びがキリスト教信仰
のお陰だと分かっている必要ありません。
それを確信するには、幸せを信仰の事柄と
して自覚することが必要です。自分の体験を
「確かに神は私のことを愛してくださってい
るようだ」とか「私の罪は、キリストの十字
架がなければ赦されなかった」と、信仰の言
葉で受け取りなおすのです。

自分の体験を信仰で受け取りなおすとは、
体験を信仰の経験として深めるということ

す。

それが出来れば、誰でも祈祷会で証しや感
話が出来ようになります。

それが出来ない、幸せはただの世俗的な
幸せで終わります。時とともに薄れて行きま
す。死を乗り越えるだけの幸せにはなりませ
ん。

死を乗り越える幸せを知らなければ、死に
よって滅び去るとも言えます。その意味で「伝
道しない（感話ができない）クリスチャンは
滅びる」という呪詛も、あながち嘘とは言
い切れません。

私たちは何を信じて、その結果、どうなっ
たのでしょうか。

私たちはキリスト教の側の言い分を信じた
のではありません。キリストを信じる人の生
きかたを信じたのです。その結果としてキリ
スト教の言い分を信じたのです。そして永遠
の命に至る幸いが、何とか信じられるよう
になりつつあるので。

「兄弟たち、皆一緒にわたしに倣う者とな
りなさい」と言えるような生きかたをしま
しょう。それが伝道です。

それは決して清廉潔白、品行方正に生きる
ことではありません。まず幸せに生きるの
です。そして、その幸せを信仰的に理解しな
おし、永遠の幸せまで高めることを目指すので

す。

そうした生きかたをしていけば、ただ自然
に生きているだけで伝道している結果になる
はず。

ひつじ会とCSの新年会

1月13日礼拝後、お好み焼きを作り食べ
ながら、新年会を行いました。集まる人は少
なくても、自由にいろいろなことを話しまし
た。



これからも続けていきたいね

各部探訪

「さん木かい」について

星野 みどり

「さん木かい」って何？と思われる方も今もいらっしやる事でしょう。第3木曜日の2時間を、男女の区別を無くして、気軽に参加できるようにと婦人会の中で話し合っって決定されました。

10時からは、2018年度は塩野七生著「ローマ人の物語」(バクス・ローマーナ)を輪読し、その後北川先生に解説をして頂きます。当時の出来事に思いをはせながら、時には色々な会話で脱線してしまう事もあります。

11時からは、以前の婦人会活動の様に奉仕活動をしたり、様々なジャンルから一緒に体験したり、お話やDVDを観たりと共に楽しい時間を過ごしました。5月には棟方充子姉の指導によるグリーンアレンジメント。多肉植物の可愛らしさとオリジナルの寄せ植えに時間をオーバーして夢中になって作りました。6月には二宮純子姉が提供して下さった「マザーテレサ」のDVD鑑賞で、改めてマザーテレサの愛の大きさに感動し、「受けるより、与えること」を考えさせられました。7月は松田隆司兄から「介護について」貴重なお話を伺い、「する側、される側」各々の介護体験等、平塚教会の今後の大きな課題の

ひとつになっていくでしょう。

また、オープンチャーチに向けてのキャンペーン作りは、小さい子ども達も大勢来てくれますようにと思いを込めて作りました。クリスマスに向けてのロソク作りやプログラム折しも婦人会の頃からのベテラン御奉仕者がいらっしやるので、あつという間に出来上がりしました。12月は森光世姉の指導による、英語でクリスマスキャロルを賛美し、懐かしかったり、新鮮な思いで主の御降誕を待つ時を与えられました。

そしていつの間にか、皆さまの善意で一杯になった古切手、ペットボトルキャップも整理し、各々の団体に送る事が出来ました。振り返るとあつという間の一年でしたが、来年度も是非「さん木かい」にお気軽に足を運んでみませんか？

教会学校のクリスマス

富田 光子

今年度のクリスマスは、12月22日(土)の11時から行いました。以前はキャンドルを灯して燭火礼拝をしていましたが、共に食事をして明るいうちに帰る時間帯が良いのではないかと考え、昨年度から11時開始に変更しました。片付けを終えても明るい時間帯に帰宅出来、ゆったりした気分で礼拝が守れたように感じました。最初に礼拝をしてその後祝会

です。祝会では、幼児科の子ども達の可愛い歌や、高学年の子ども達のハンドベルの演奏があり、ゲームを楽しんだところでサンタさん登場です。本物のサンタさんではないと思いつつも楽しいサンタさんで子ども達の目はキラキラ輝いていました。

さて礼拝の方のハイライトといえば、やはりページェントでしょうか。劇としてお見せするのではなく、あくまでも礼拝の一部であり、演じる子どもも、教会のクリスマスに初めて出席した方にとってもイエス様の誕生の喜びを感じられるものだと思います。教会学校の子どもの達がここ数年減り続け、ページェントが出来るのか心配していましたが、ナレーターは教師がやることになりましたが、今年も子ども達によってページェントがやれて嬉しく思いました。

3人の博士は、以前は元気な男の子が演じて「宝物は大切に持つて…」など言い続けたこともありました。今年も、ベテランの三人で安心して任せることが出来ました。初めて役についた一年生も、少し緊張した顔や声でしたが、頑張っていました。ヨセフとマリアは、妹のたつての希望で兄妹で演じてくれました。昔、教会学校の生徒だった方達が演じた役を懐かしげに話されるように、今年の子ども達もきつと大人になっても今回の経験を思い出してくれることでしょう。

私の小さい頃は教会学校(日曜学校)が幻燈や、ゲームなど楽しいイベントをしてくれ

る場所だったので、大勢の子ども達が集まりました。でも今の子ども達には楽しいことが教会以外にでも、沢山ありますし、お稽古事などでとても忙しい生活をしています。その中で日曜日の朝教会学校へ行くことを選んでくださる子ども達を大切に育てていきたいと思えます。讃美歌の「やさしい目が」の歌詞ではありませんが、よい子になれない私でも、神様はいつも見ていてくださること、守ってくださること、支えてくださることを心に届きたいと願っています。

皆様宜しくお願いいたします

坪田 裕美

私は、1939年、鎌倉駅近くの商家に生まれ、結婚するまで其所で育ちました。1964年頃から、当時日本キリスト教団鎌倉教会の敷地内にあったYWCAのコーラス部に友達と一緒に参加し始めました。

活動の一つにバイブルクラスが、毎週日曜日の午後7時より、宣教師のトマス・グラブス先生をお迎えして行われ、全くの未信者の私も出席を受け入れて頂きました。小さな部屋に大きなテーブルを囲み、会社員・大学生・専業主婦等毎回十数人が出席してとても温かな雰囲気でした。仏教を信仰する家庭に育った私にとって、キリスト教の教えや価値観は、全く初めてで砂地に水が染み入るように心に

入って来ました。中でも、「奉仕」についてグラブス先生は、ある高齢の男性を例に質問されました。「その人は、視力を失い歩行ができないけれど、喜々として奉仕をする。何の奉仕でしょう？」先生の問いに、我が身を置き換えても答えが生まれませんでした。答えは、「背負われて病床に在る人や悲しんでいる人を訪問し、賛美歌を歌い祈ること」でした。神様を信じ従う喜びに、全てを従容し奉仕をする。その高齢の男性の信仰に、深い感銘を受けました。

YWCAの活動は楽しく、東山荘での修養会やキャンプ等に参加しましたが、教会の礼拝にはあまり出席しませんでした。それでも、高田彰・深雪牧師夫妻は、私に温かく接してください、今でも深く感謝しております。

バイブルクラスに出席して一年余りのある日、茶道をご指導頂いていた教会員の小方美智子姉より「そろそろ洗礼を受けたら？」とお話をいただきました。「未だ未熟ですが」の答えに、「私たちクリスチャンも同じ未熟です。だからこそ、神様を信じその教えに従うのです。とのお言葉に背を押されたるようにして、高田彰牧師に受洗願いを申し出しました。教会役員の承認をいただき、1965年4月18日のイースターに、教会付属ハリス幼稚園のホールで洗礼を受けて頂きました。

翌年の2月6日に高田彰牧師の司式で坪田隆夫と結婚し、籍も横須賀小川町教会となり、

2007年7月までの41年間皆様との親しいお交わりをいただき感謝しております。2007年7月に、横須賀小川町教会の枝教会として創立された野比伝道所（当時）に転出いたしました。野比教会（現在）は、アットホームな雰囲気、小さな群れ故に一人一人がいくつものお役を担い、奉仕されています。

昨年の6月に私は、牧者山田和人先生に御平塚教会への転出を希望し、役員会で承認をいただきました。

この度、伝統ある平塚教会への転入が許され、喜びと共に深く感謝を致します。小さな器ですが、グラブス先生から学んだことが活かされればと願っております。どうぞ宜しくお願いいたします。



坪田 裕美姉

編集後祈

二月になり、今年度を反省し、次年度の計画を考える時期になりました。インフルエンザが流行しています。皆様どうぞお体を大切にしてください。お一人お一人に豊かな主の恵みと導きが注がれますように。 編集子